

「宇宙博 2014」 NASA・JAXA の挑戦

宇宙博観覧記：小林信雄

「宇宙博 2014」が9月23日まで幕張メッセで開催されています。早速、出かけました。アメリカ航空宇宙局（NASA）のスペースシャトルや国際宇宙ステーション（ISS）、日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）の小型惑星探査機「はやぶさ」などなど。地球の大気圏脱出、宇宙への挑戦、勇気とその技術のすごさを実感しました。宇宙に興味がある方は必見です。



実物大の「スペースシャトル」。大気圏突入時には、 $1,600^{\circ}\text{C}$ の高温に耐え、宇宙往復100回を超えるミッションを成功させた。



「渦巻き銀河」画像の前にて、ポーズをとる筆者。宇宙探査や天体観測が趣味。相模原市のJAXAへは度々足を運んで講座を受講。



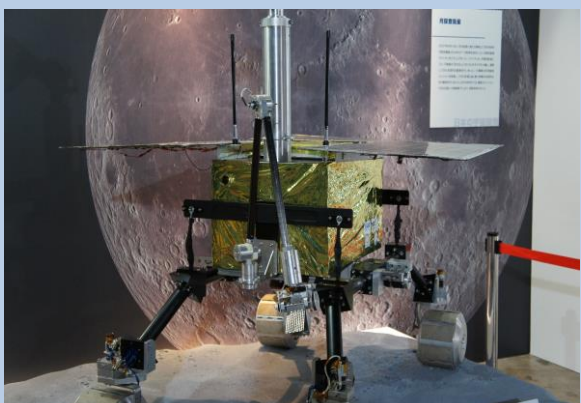
「スペースシャトル」のコックピット。操縦席は左右に2席。大気圏突入の際は、耐熱タイルの破損など最大限の緊張感で操縦された。



国際宇宙ステーション（ISS）の内部。地上400kmを時速27,700kmで飛行中。若田宇宙飛行士がコマンダー（船長）を務めて帰還した。



JAXA 的川名誉教授と筆者



「月面探査車」。JAXAは月探査計画が進めている。筆者は2007年、月探査「かぐや」衛星のパナントにメッセージを載せて月へ送った。



小惑星探査機「はやぶさ」のイオンエンジン4基。キセノンをイオン化して噴射。7年間「自律航行」で「イトカワ」小惑星から帰還した。